ゴマダラカミキリに対する薬剤の効果（耐雨性）

ゴマダラカミキリ成虫は、６月上旬頃より発生する。６月中下旬に成虫防除が行われるが、梅雨期であり散布しても直ぐに雨天になったり、また、黒点病防除剤と混用され降雨前を狙って行われることも多い。そこで、本虫に対する主要薬剤の耐雨性について検討した。

○成虫の発生と防除時期

成虫は早いものは5月下旬から羽化してくるが、**最も多いのは6月中旬頃**である。羽化した成虫は、10日程度、葉や枝の表皮を食害（後食）した後、産卵する。成虫に対する防除は、**産卵が多くなる直前の時期**（6月中下旬）に行うことが望ましい。

写真1　枝の食害(後食)痕

写真2　葉の食害(後食)痕

食害されたふちの部分はノコギリ状になり、チョウ目害虫などの食害痕と異なる。

食害（後食）痕は、成虫の**発生時期や量を見極める目印**となる。

両剤とも低濃度（4000倍）でも、**降雨が無い場合には死亡率100%と高い効果を示す**が、降雨が**50mmを超えるとモスピラン区は同率60%と効果が低下**してくる。高濃度（2000倍）では、50mmを超える降雨量でも死亡率80%以上と効果は安定しており、特にダントツ区はどの降雨量でも同率100%と効果が高かった。

○主要薬剤の耐雨性

供試薬剤	希釈倍数	降雨量	供試虫数	放虫2日後調査 正常	死亡	苦悶 軽	苦悶 重	死亡率(%)	食害程度
ﾓｽﾋﾟﾗﾝSL液剤	4000倍	0	10	0	4	1	5	100	±
		25	10	1	2	0	7	90	+
		50	10	4	0	2	4	60	++
		75	10	4	3	0	3	60	+
	2000倍	0	10	1	8	0	1	90	±
		25	10	1	4	1	4	90	±
		50	10	2	4	0	4	80	+
		75	10	2	4	0	4	80	+
無処理			10	10	0		0	0	+++

供試薬剤	希釈倍数	降雨量	供試虫数	放虫2日後調査 正常	死亡	苦悶 軽	苦悶 重	死亡率(%)	食害程度
ﾀﾞﾝﾄﾂ水溶剤	4000倍	0	10	0	10	0	0	100	+
		25	10	2	7	0	1	80	±～+
		50	10	1	9	0	0	90	±～+
		75	10	3	4	3	0	70	+
	2000倍	0	10	0	10	0	0	100	−
		25	10	0	8	0	2	100	−
		50	10	0	8	2	0	100	±
		75	10	0	10	0	0	100	±
無処理			10	9	1	0	0	10	+++

注1）食害程度　＋＋＋：無処理と同等、＋＋：無処理の2/3、＋：無処理の1/3、±：わずか、－：なし
注2）苦悶　　軽：歩行が異常、重：歩行できない（足を動かす程度）
降雨処理は薬剤散布1日後に、人口降雨装置を使い25mm/時間の雨を1～3時間あてて行った。
ﾓｽﾋﾟﾗﾝは6/30に薬剤散布、7/1に降雨処理、風乾後放虫し7/3に判定、ﾀﾞﾝﾄﾂは7/13に薬剤散布、7/14に降雨処理、風乾後放虫し7/16に判定した。管理は雨よけ状態で行った。
苦悶虫は死亡虫として、死亡率を計算した。